全女性連が子育て支援で地域づくり

全国商工会女性部連合会（全女性連）は、商工会女性部組織化四〇周年を迎えた平成十八年度に、商工会女性部が豊かな地域づくりの先駆者的役割を果たすことを目的に「商工会女性部地域問題調査研究委員会」を新たに立ち上げ、地域問題調査研究事業に取り組んできました。

女性部員の経験生かし、子育て支援

全女性連では、地域の商工業者が抱える課題の一つである「後継者難」「会員減少」への対策として、平成十四年に「女性の創業等支援助成金事業」を立ち上げ、女性による創業や経営革新といった新たな事業活動を支援してきています。

十八年度、地域活性化への新たな切り口として注目したのが「少子高齢社会」に対応した事業であり、特に社会的問題となっている「少子化問題」です。少子化進展の背景には複雑に絡み合った諸問題が存在していますが、中でも「仕事と子育ての両立」の難しさは近年急速に認知されてきています。女性部員の多くは働きながら子育てをしてきた第一人者でもあり「仕事と子育てを両立させる環境についての研究」は、女性部としてはその経験を活かした具体的な対応策を提案すべき問題と言えます。

委員会では、十八年度の調査研究のテーマを「仕事と子育ての両立を目指した地域環境づくりについて～身近な子育て支援策の研究～」に設定し、実態把握のために全国二三一三商工会女性部を対象とした「子育て支援アンケート」の実施・分析を行いました。アンケートから、地域や都市規模に関係なく子供を取り巻く環境は厳しくなる一方で、多くの商工会では「何かをしなければ」という気持ちがあることもわかりました。

アンケート結果をもとに、十九年度全女性連事業として、豊かな地域づくりの推進や少子化社会への対応を目指し、子育て支援への取り組み事業に対して全女性連が支援・助成を行うこととなりました。

事業の予算としては、商工会女性部組織化四〇周年記念事業の一環として実施した全国一五万部員の気持ちの込められた「一〇〇円玉募金」の一部を充当しました。

初年度は、二件の子育て支援事業に助成金

十九年五月から六月に事業の募集を行ったところ、六件の申請がありました。事業の申請にあたっては、商工会女性部が実施する事業であり、子ども又は子育て中の親等を対象とした取り組みに対し、必ず女性部員が事業に参加して中心的な役割を担っている事業であることを条件としました。女性部員数の少ない商工会女性部からの申請もあり、地域におけるやる気や熱意が感じられました。

これらを踏まえ、七月二十三日に商工会女性部子育て支援モデル事業審査委員会を開催、その結果、新城市商工会女性部（愛知県）の『食育アート事業』、四万十市西土佐商工会女性部（高知県）の『子育てママ応援団事業』を十九年度の助成対象先に決定しました。

商工会女性部が子育て支援事業に取り組むことは、多くの生活者への価値提供につながります。子育てというテーマは言い換えれば「親育て」「地域育て」にほかならず、現代社会が抱える問題の根底に存在する問題に対し、具体的に取り組むことになり、地域活性化や地域再生に対して大きな意義があると思っています。

〈平成19年度の助成対象事業〉

実施商工会女性部	新城市商工会女性部	四万十市西土佐商工会女性部
事業名	食育アート事業	子育てママ応援団事業（仮称）
主な対象者	新城市内の幼・保育園児、小学生の親子、市内福祉大学生	0～18歳（高校生）までの子を持つ西土佐地域在住（就業）の親
事業概要	自分たちの毎日食べているお米を通し、田植えから稲刈りまで親子で体験し学習する場を提供するとともに、田んぼに種類の違う苗を使い絵を描くことによって、話題性・集客率を上げ、地域活性化につなげていく。	栄養士と連携した地産地消を心がけたメニューの提供、地域移動販売業者等との連携による買い物配達サービス、生活情報の発信等、子育てママが入り込みやすいように携帯電話を活用した子育て支援サービスを実施
女性部の役割	田植え、稲刈りの指導、豊作パーティーの企画・運営、田んぼの管理	栄養士との連携による食育レシピの考案、登録店舗及びママ会員の募集、事業の周知、地域移動販売業者や商店及び野菜生産者等との連携等